

## 巻頭言

本研究所の前身である金沢大学がん研究所は、昭和 42 年に設立されて以来、半世紀の間、がんの本態解明を目指す基礎研究とそれを応用した臨床研究を一体的に推進して参りました。国立大学附置研究所の中でも、唯一の「がん研究」に特化した研究所として、がんの克服に貢献できるような成果を発信することが、本研究所の重要な使命と位置付けています。この目標に向かって、本研究所では「がん幹細胞研究」「がん微小環境研究」「がん分子標的探索」に着目した 3 つのプログラムに加えて、平成 27 年度から「先進がんモデル共同研究 (ICMR) センター」を研究所内に設置し、遺伝子改変モデル (GEM) と患者由来がん移植モデル (PDX) の研究開発を推進する「先進がんモデル研究」を 4 つ目のプログラムとしてスタートさせました。また、平成 27 年度には、国内および海外の卓越した研究者をリサーチプロフェッサーとして本研究所 ICMR センターに招聘し、二つの新たな研究分野を発足させました。現在、研究分野数が 14 となり、皆が一丸となってそれぞれの研究プログラムを推進しているところです。また、平成 27 年度から、本研究所は金沢大学に新たに設置された新学術創成研究機構を構成する部局となり、新たな分野融合研究の探索にも着手致しました。これにともない、新たに 4 名の若手 PI を採用し、研究所の機能強化に邁進しているところです。

また、本研究所は平成 23 年度より「がんの転移・薬剤耐性に関する先導的共同研究拠点」として全国共同利用・共同研究拠点として文部科学省より認定されています。平成 27 年度も約 50 件程度の共同研究課題を採択して共同研究を実施しました。また、昨年度より始めた国際共同研究の公募も継続し、韓国、中国、シンガポール、オーストラリアなど環太平洋各国のがん研究者との共同研究を実施しました。また、米国の共同研究機関には、若手頭脳循環プログラムを活用して若手研究者を長期派遣しており、国際研究拠点としての発展を目指した活動を推進しています。これらの活動が評価され、平成 27 年度に行われた期末評価により、平成 28 年度からも同じ名称の共同研究拠点として再認定を受けることになりました。

研究機関の連携では、国立がん研究センターと金沢大学の省庁の枠組みを越えた交流協定を締結し、今後ますます国立がん研究センター研究所との連携を深めて行くことが期待されます。また、中国復旦大学がん研究所との連携協定による合同シンポジウムを開催した他、新たにシンガポールの DUKE-NUS 研究所との連携に向けた研究交流シンポジウムを金沢とシンガポールの双方で開催しました。このような国際的な研究者ネットワークの構築および研究機関連携を今後も強化していく所存です。ここに、平成 27 年度の研究所内各研究分野の成果を取りまとめ、業績集として報告させていただきますので、ご批判を賜ることができましたら幸いです。

金沢大学がん進展制御研究所長 大島正伸